

令和3年 結核登録者の状況

1 新登録患者数及び罹患率

(表1)新登録患者数(人)及び罹患率(人口10万対)

区 分	H29	H30	R1	R2	R3
新登録結核患者数	27	26	23	24	18
罹患率	7.9	7.7	6.9	7.2	5.5
喀痰塗沫陽性肺結核患者数	13	11	8	12	8
喀痰塗沫陽性肺結核罹患率	3.8	3.3	2.4	3.6	2.4
潜在性結核感染症患者数(初感染結核)	13	8	3	6	8



(表1より) 令和3年新登録結核患者数は18人、潜在性結核感染症患者数は8人であった。

(表2)男女別結核患者数(人)

区 分	性 別	H29	H30	R1	R2	R3
新登録結核患者	男 性	17	12	16	13	10
	女 性	10	14	7	11	8
喀痰塗沫陽性結核患者	男 性	7	4	4	8	4
	女 性	6	7	4	4	4
潜在性結核感染症	男 性	9	3	2	3	3
	女 性	4	5	1	3	5



(表2より) 令和3年新登録結核患者性別比率は男性10人(55.6%)、女性8人(44.4%)とやや男性が多い。

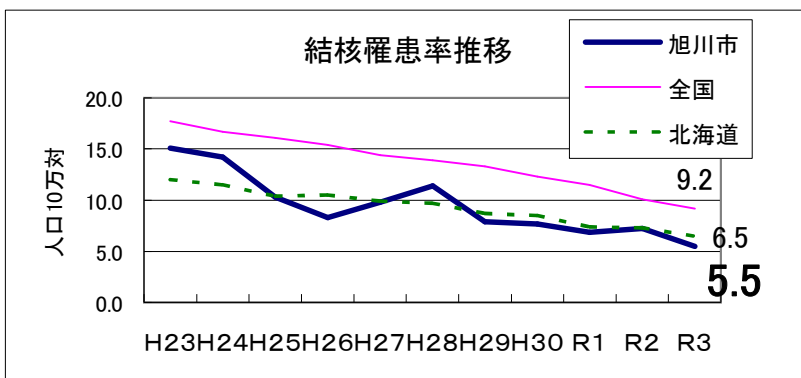
(表3)年齢別結核患者数(人)及び罹患率(人口10万対)

年齢区分	患者種別		新登録結核患者		喀痰塗沫陽性結核患者		潜在性結核感染症患者	
	患者数	罹患率	患者数	罹患率	患者数	罹患率	患者数	罹患率
9歳以下	-	-	-	-	-	-	-	-
10歳代	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	-	-	-	-	-	-	-	-
30歳代	2	6.3	1	3.1	1	3.1	1	3.1
40歳代	-	-	-	-	-	-	-	-
50歳代	1	2.3	-	-	-	-	-	-
60歳代	3	6.5	1	-	4	8.7	4	8.7
70歳代	2	3.9	1	2.0	2	3.9	2	3.9
80歳以上	10	26.9	5	16.2	1	2.7	1	2.7
計	18	5.5	8	2.4	8	2.4	8	2.4



(表3より) 新登録結核患者の年齢は、80歳以上が最も多く、年齢別罹患率においても80歳以上が最も高い。30歳代の2名については、1名が医療従事者であった。年齢別割合では、60歳代以上が83.3%と全体の8割以上を占めている。

(図1) 結核罹患率(人口10万対)年次推移

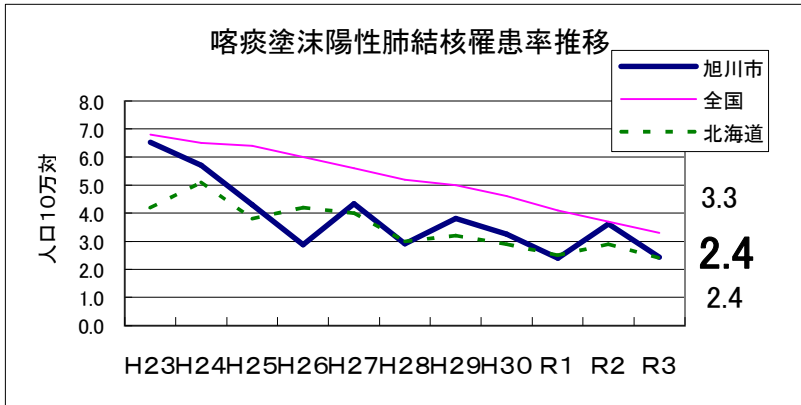


(図1より)

結核罹患率は5.5と、令和2年の7.2よりも減少しており、まん延とされる結核罹患率10未満を5年連続達成している。

罹患率は全国、北海道、旭川市のいずれも減少傾向にあり、5年連続で旭川市は全国、北海道よりも低い罹患率となっている。

(図2) 喀痰塗抹陽性肺結核罹患率(人口10万対)年次推移



(図2より)
 喀痰塗抹陽性肺結核罹患率は2.4で、令和2年の3.6よりも低い値となった。
 全道と同じ値で、全国と比較すると低い値であった。

※喀痰塗抹陽性肺結核とは、患者の痰から多量の結核菌が排出されている結核のことであり、周囲の人への感染源となりやすい。

2 結核登録者数及び有病率

(表4) 結核登録者数(人)及び有病率(人口10万対)

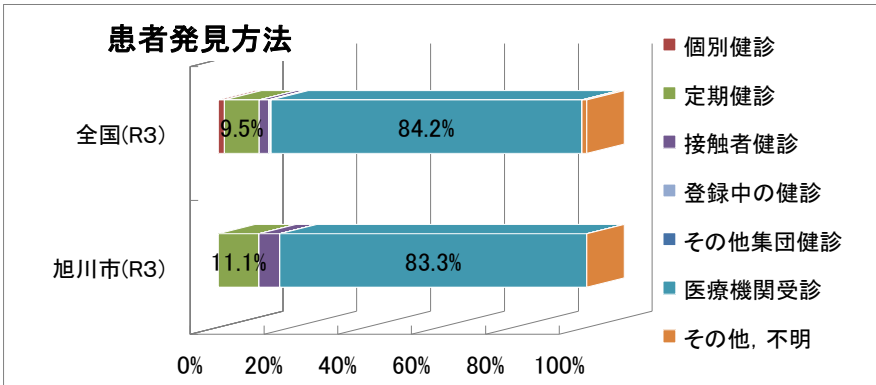
区 分	H29	H30	R1	R2	R3
結核登録者数	78	70	62	58	47
活動性全結核患者数	20	21	13	17	11
旭川市の有病率	5.9	6.2	3.9	5.1	3.0
全国の有病率	8.8	8.3	7.7	6.8	6.2



(表4より) 年末総登録者数は47人と、令和2年より11人減少した。うち、活動性全結核患者数は11人であり、令和2年より6人減少した。また有病率も、前年から2.1減少し、3.0であった。有病率は経年的にみると減少傾向であり、全国と比較するといずれの年も全国を下回っている。

3 新登録患者結核病類

(図3) 患者発見方法



(図3より)
 新登録結核患者18人の発見方法は全国と同様に、医療機関受診が15人(83.3%)と最も多く、次いで定期健診が2人(11.1%)となっている。

(表5) 結核患者分類

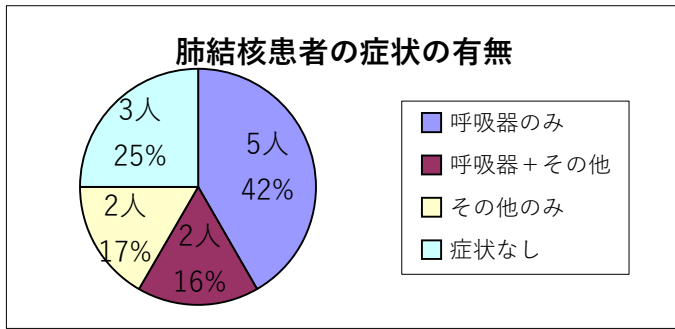
※新登録患者18人。うち重複診断1名(肺結核, 粟粒結核)

	病 名	人 数(人)	割 合
肺結核	肺結核	12	66.7%
	気管支結核	0	0.0%
肺外結核	粟粒結核	1	5.6%
	結核性胸膜炎	3	16.7%
	結核性心膜炎	1	5.6%
	結核性髄膜炎	1	5.6%
	腸結核	1	5.6%
合 計(延)		19	



(表5より)
 新登録結核患者18人の結核病類においては、肺結核が12人(66.7%)であった。肺外結核は結核性胸膜炎が3人(16.7%)、粟粒結核、結核性心膜炎、結核性髄膜炎、腸結核がそれぞれ1人(5.6%)であった。

(図4) 新登録肺結核患者の症状の有無



(図4より)

新登録肺結核患者12人うち9人(75%)が有症状であり、呼吸器症状があったのは7人(58.4%)であった。

4 新登録有症状肺結核患者の受診・診断・発見の遅れ(表6)

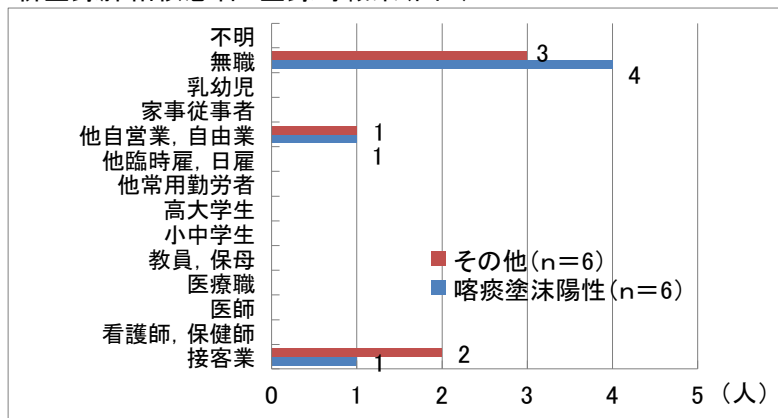
	H29	H30	R1	R2	R3
総数	17	21	14	16	9
受診の遅れ	4	2	1	2	2
診断の遅れ	4	1	2	1	3
発見の遅れ	3	2	0	0	2



(表6より) 有症状の肺結核患者9人のうち、発病から初診までの期間が2か月以上(受診の遅れ)の者は2人(22.2%)、初診から診断までの期間が1か月以上(診断の遅れ)の者は3人(33.3%)、発病から診断までの期間が3か月以上(発見の遅れ)の者は2人(22.2%)となっている。また、発病時期が不明であった者は4人いた。全国との比較では、いずれも全国より高い割合となっている。

※参考:R3 全国 受診の遅れ 20.8% 診断の遅れ 23.1% 発見の遅れ 22.0%

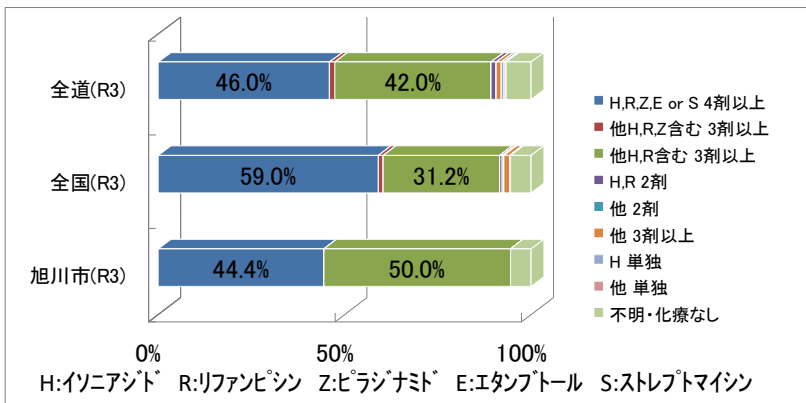
5 新登録肺結核患者 登録時職業(図5)



(図5より)

新登録肺結核患者12人の登録時職業は無職が7人(58.3%)と最も多く、次いで接客業、自営業であった。

6 新登録結核患者化療内容(図6)



(図6より)

新登録結核患者18人の化療内容はH,R,Z,E or S 4剤以上使用していた者が8人(44.4%)、H,R含む3剤以上使用していた者が9人(50%)であった。

全道、全国と比べると、4剤以上治療の者の割合が低く、H,R含む3剤以上治療の者の割合が高いが、これは80才以上の患者の割合が高く、ピラジナミドを使用できなかったことによると考えられる。

7 薬剤感受性試験結果(表7)

	人数(人)	割合
結核菌培養陽性患者	11	
薬剤感受性試験実施者	10	90.9%
HR耐性	0	0.0%
SM耐性	1	10.0%
HRSE全てに感受性	9	90.0%
薬剤感受性試験未実施者	1	9.1%

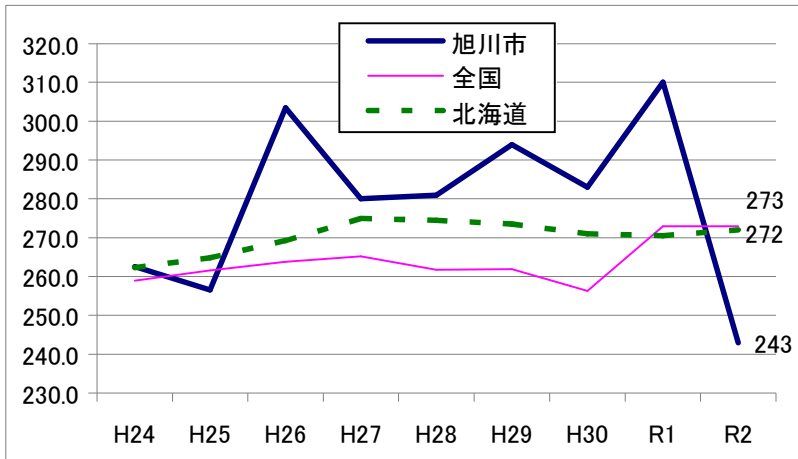


(表7より)

新登録肺結核菌培養陽性患者11人のうち10人(90.9%)が薬剤感受性試験を実施し、ストレプトマイシン耐性が1人判明している。主要4剤(HRSE)全ての薬剤に対し感受性のある人は9人(90.0%)となっている。

未実施者1人は菌量が少なかったため、実施できなかったものである。

8 令和2年全結核治療完遂継続者治療期間中央値(図7)

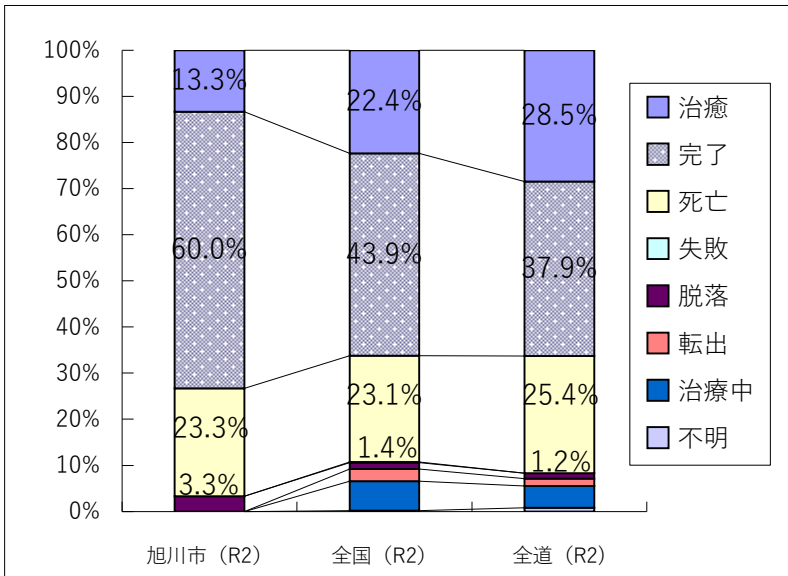


(図7より)

令和2年新登録患者の全結核治療完遂継続者治療期間中央値は243日と、大幅に減少した。全国・全道と比較しても30日ほど短くなっている。

理由としては、令和2年は初回治療で4剤併用療法を実施できた者の割合がやや高かったことが考えられる。

9 令和2年新登録活動性結核患者 治療成績(図8)



(図8より)

令和2年新登録活動性結核患者30人の治療成績において、治癒は4人(13.3%)、完了は18人(60.0%)で、治療成功率は73.3%であった。

また、死亡が7人(23.3%)のほか、脱落が1人(3.3%)だった。

失敗は0人で、特定感染症予防指針の目標値である5%以下を満たしていた。